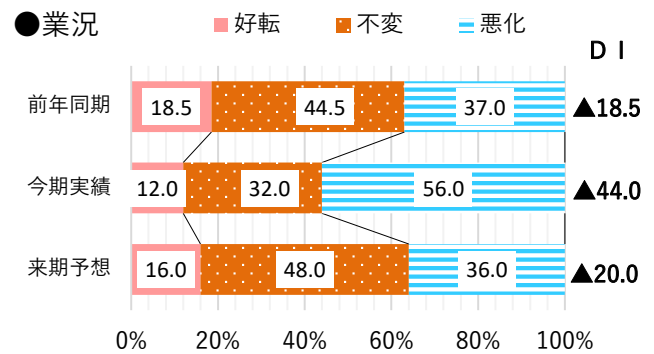


小 売 業

業況、売上、採算

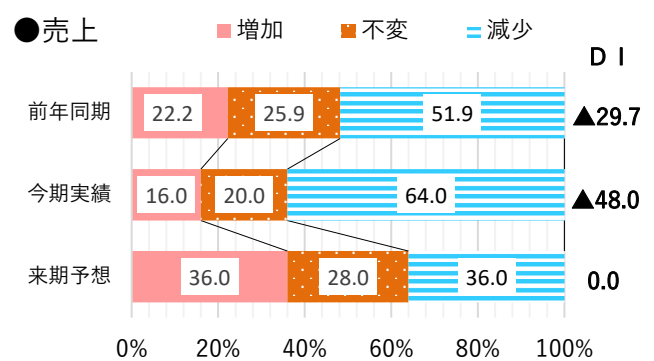
今期(2022.1~3)の業況判断DIは▲44.0で、前年同期(2021.1~3)と比べ25.5ポイント低下しました。

来期(2022.4~6)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



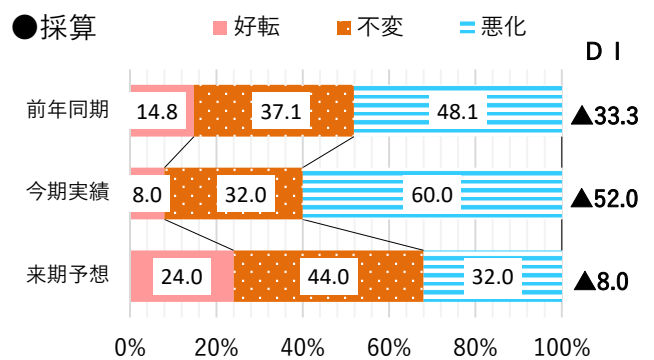
今期の売上高DIは▲48.0で、前年同期と比べ18.3ポイント低下しました。

来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

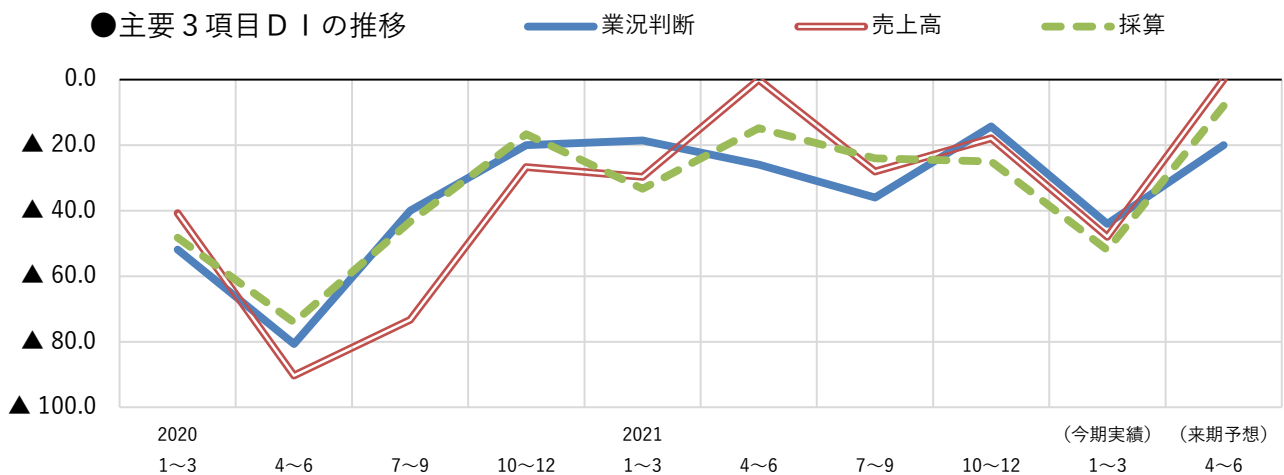


今期の採算DIは▲52.0で、前年同期と比べ18.7ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



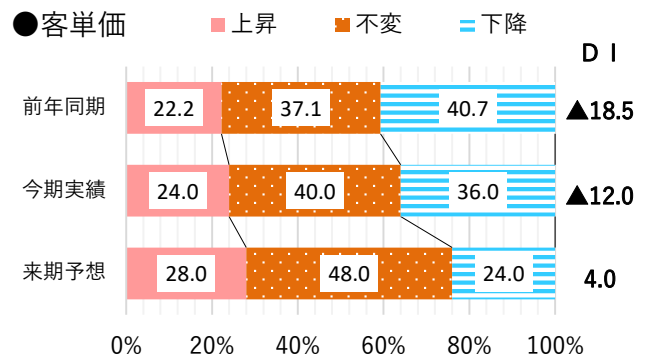
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

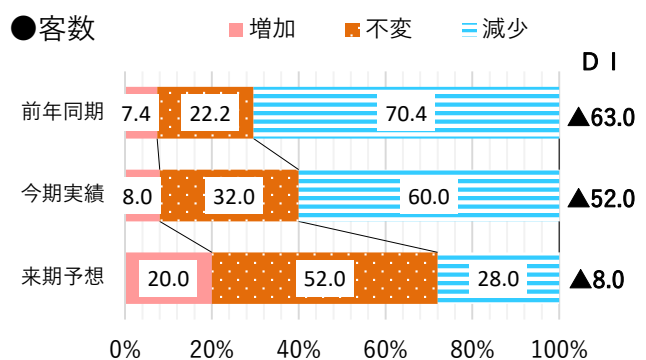
今期の客単価DIは▲12.0で、前年同期と比べ6.5ポイント上昇しました。

来期は、客単価がプラスに転じると予想しています。



今期の客数DIは▲52.0で、前年同期と比べ11.0ポイント上昇しました。

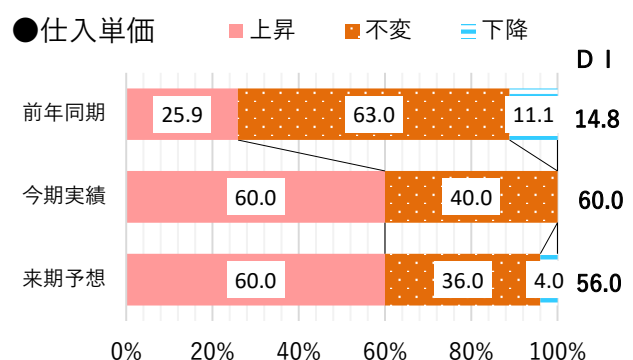
来期は、客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

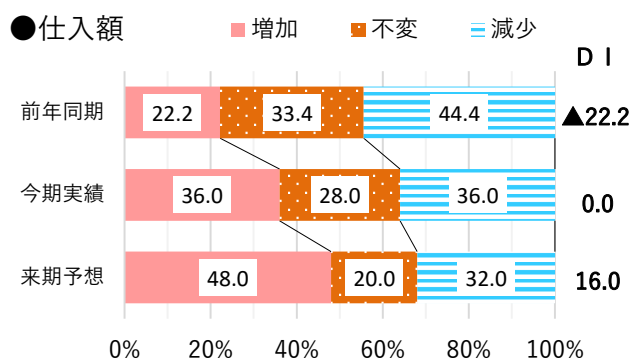
今期の仕入単価DIは60.0で、前年同期と比べ45.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



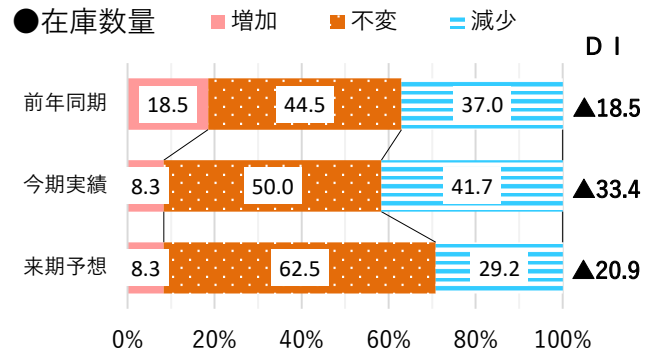
今期の仕入額DIは0.0で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

来期は、仕入額がプラスに転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲33.4で、前年同期と比べ14.9ポイント低下しました。

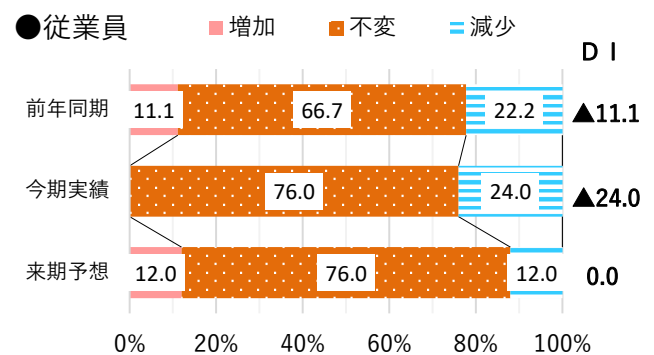
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



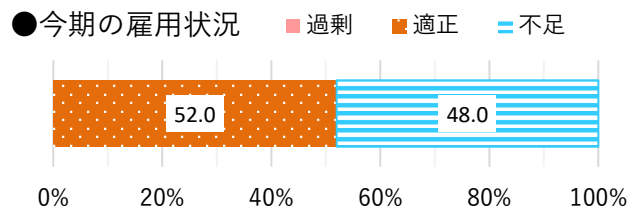
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲24.0で、前年同期と比べ12.9ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は52.0%、不足していると回答した企業の割合は48.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の40.0%を占めています。

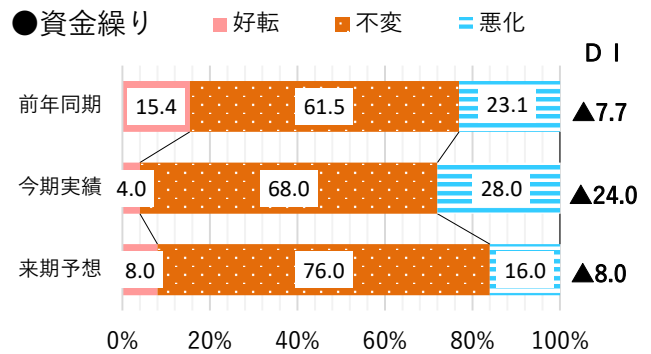
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	3

資金繰り、設備投資

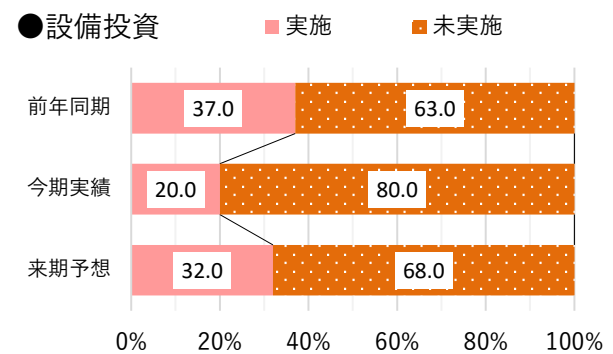
今期の資金繰りDIは▲24.0で、前年同期と比べ16.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



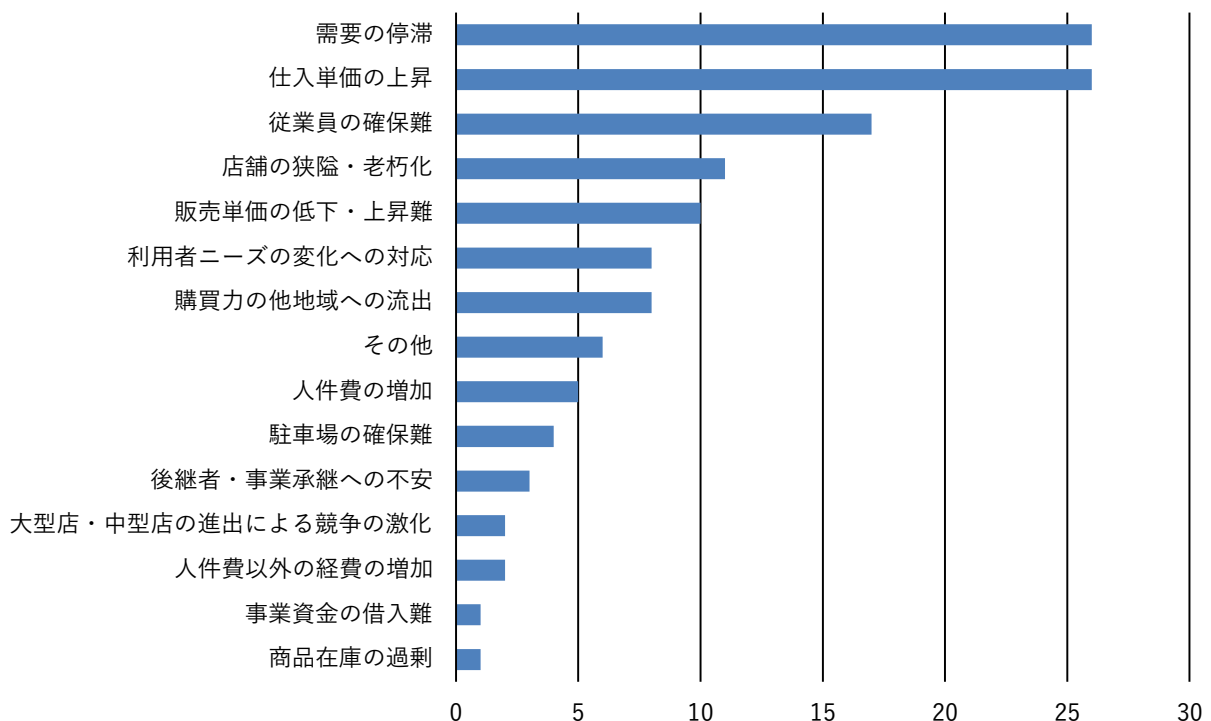
設備投資を実施した企業の割合は20.0%で、前年同期と比べ17.0%低下しました。投資内容は1位が「販売設備」、

「付帯施設」(同位)、2位が「OA機器」、「その他」(同位)の順です。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、「仕入単価の上昇」(同位)、2位が「従業員の確保難」、3位が「店舗の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- まん延防止等重点措置の影響が大きく、外食産業、宿泊施設向けの売上が大きく減少した。措置は解除されたが、感染不安は続いており、回復まで時間がかかると思う。(食料品小売)
- コロナ禍で札幌近郊からの来客が減少しており、年明けから売上の減少が続いている。(食肉小売)
- コロナ禍だが、注文数は減少しておらず、オンラインショップが好調だった。(菓子製造小売)
- 客数に大きな変化はないが、客単価が下降傾向にある。腕時計は、ここ数年3万円前後の商品が売れ筋だったが、近年は1~2万円の商品が売れている。宝石や貴金属も、コロナ禍により女性の集まるイベント等が減少し、売れていない。(衣服・身の回り品小売)
- 人材を確保できず、販売機会を喪失しているため、売上は横ばいだった。利益率は若干低下した。(衣服・身の回り品小売)
- 1月は乗り切ることができたが、2月中旬以降の業況は大幅に悪化している。(衣服・身の回り品小売)
- 仕入単価が上昇した。客数は増加したが、売上に変化はない。(衣服・身の回り品小売)
- 東欧情勢の悪化に伴い、原油価格の高騰が続いており、今後の予測が立たない。(燃料小売)
- 新車の受注を受けても、生産が遅れているため、売上の計上も遅れている。自動車の点検、修理を担うサービスエンジニアが不足している。(自動車小売)
- コロナ禍の影響は無いが、物価上昇や戦争等、先行きの不安から新規客が減った。(自動車小売)
- 半導体不足とコロナ禍による海外の都市封鎖により、商品や部品の欠品、未達が生じた。(自動車小売)
- 仕入単価が高止まりしている。(自動車小売)
- 大雪による客数の減少で、業況は悪化した。(家電量販店)
- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、客単価の上昇傾向と来店回数の減少傾向を感じていたが、市民がコロナ禍での生活に慣れたのか、昨今は客数の増加傾向を感じる。(大型店)
- 長引くコロナ禍やオミクロン株の流行により、外出控えが続いており、売上と客数は減少傾向にある。市民の来店頻度を上げるため、店内のレイアウトを変更した。(大型店)
- 衣料品、生活用品の売上が減少したが、食品は伸長した。(大型店)
- 商品仕入価格が上昇したため、粗利が減少した。(コンビニ)
- 売上は持ち直しているが、まだ低い水準にある。(ドラッグストア)
- 売上の減少により、セールスの開催予定を変更した。(ホームセンター)

[来期の業況について]

- まん延防止等重点措置が解除されたことで、売上の一部回復が期待できる。店頭販売は、観光客等の需要が見込める。(食料品小売)
- コロナ禍が終息し、小樽観光が立ち直らなければ、より苦しい状況になると思う。(食肉小売)
- コロナ禍が終息に向かわなければ、業況は現状維持または悪化を見込む。顧客の所得が下降傾向にあるため、生活必需品への支出が中心となり、贅沢品への支出が減り続けると思う。(衣服・身の回り品小売)
- 東欧の情勢悪化で仕入価格が上昇すれば、利益が減少する。(衣服・身の回り品小売)
- 急激な変化はないと思う。利益率の改善が課題となる。(衣服・身の回り品小売)
- 好転の見通しは立たない。(衣服・身の回り品小売)
- 戦争の動向とガソリンの価格は、利用客数の増減に関わるので注視する。従業員の待遇改善等、働き方改革が急務だと考えている。(自動車小売)
- 新車の納期が遅れると思われる。(自動車小売)
- 売上の増加、客単価の上昇を見込む。(家電量販店)
- 賃金の引き上げにより、短時間勤務の従業員の時間管理が重要となり、社員に負担となる。(大型店)
- コロナ禍が終息すれば業況の好転に期待できるが、物価上昇とインフレが懸念される。(大型店)
- 来店頻度を上げる試みが功を奏し、業況が好転するよう期待している。(大型店)
- 東欧の戦争により石油価格が上昇すれば、関連商品の値上げが懸念される。(コンビニ)
- コロナ禍や、ロシアとウクライナの戦争によって仕入単価が上昇する可能性が高い。(ドラッグストア)
- 1年程度業況の悪化が続くのではないかと懸念している。(ホームセンター)